

逐月刊行

卷五

西洋雜誌

江戸開物社



定価貳匁



西洋雜誌卷五

楊江學人輯刻

英吉利五并噠王系譜

イギリス

デ子ルク

ゼオルジ二世王 享保十二年又王ゼオルジ一世の位を嗣き宝曆十年没す

フレデリキ、ロウ井ス 善の世子王位を継ぐべく没す

女ロウ井セ 陸王又嫁二子と生む寶曆元年没

ゼオルジ三世王 寶曆六年没す

カロリ子、マダルデ 陸王又嫁二子と生む安永四年没



ロウ井セの夫

噺王フレデリキ五世 延享二年

即位明和三年没す

フレデリキ継娶

ジュリヤ子、マリヤ

ブロンスエイキ候の女

連國公子フレデリキ 文化五年没す

噺王キリスチヤン八世 天明六年

生オウグステンブルク公の女を娶り天保十年即位

高永元年没す

女ロウ井セ、カルロツテ 寛政元年生

文化七年ヘスセン候井ルレムと嫁す

フレデリキ、ヘルヂヤント

寛政四年生文政二年

○噺王の女カロリ子と嫁す

ヘスセン

黒西國侯

ヘツセンカーセル候井ルレム

文化七年ロウ井セ、カルロツテを娶り

カロリ子の夫

噺王キリスチヤン七世 明和三年

即位文政五年没す

女ロウ井セ 寛政元年ヘス

センカーセル候チヤルリスと嫁す

噺王フレデリキ七世 文化五年

生高永元父王の位を嗣文久三年没す

女マリヤ アンハルト公と嫁す

女ロウ井セ 文化七年生天保

十三年噺の公子キリスチヤンと嫁し六子を産む

フレデリキ、井ルリヤム

普魯士王の女アンナと嫁す

女オウグステ 男爵ブリ

キセン、ヒ子ケと嫁す

女ロウ井セ、カロリ子 ヘスセン

カーセル

女
オウギユステ ③カムブリジ
公は遊し子
を生ま其長子ゼオルジ
今のカムブリジ公より

ロウ井セの夫
連國公子キリスチヤン

文政元年生天保十二年
ヘスセン候の女ロウ井セ
を娶ふ初スレスウエイキ
ホルステインと封せられ
後連王フレデリキ七世の
後を嗣ぎ文久二年没を

フレデリキ 天保五年生

候千ヤルリスの女子
て寛政元年グリユクス
ブルク公フレデリキヨ
遊し教子を生まむ

グリユクスブルク公千ヤルリス

③連王の女并ルレミナヤ
娶ふ

公子教名 略之

連王フレデリキ六世 文化
五年 即位天保十年没を

女
アレキサンドラ 弘化元
年生

文久二年④英の世子
と嫁む

井ルリヤム 弘化二
年生

女
マリーダグマル 弘化四
年生

女
ザイラ 嘉永六
年生

ワルデマル 安政五
年生

女
ロウ井セ、オウギユステ、オ
ウ

グステンブルグ公と嫁む

女
カロリ子、アマリー 奥ウグ
ステン

ブルグ公の女子と寛
政八年生連王キリスチ
ヤン八世④と嫁しフレデ
リキ七世を生まむ方今
嫁婦より

女
カロリ子 寛政五年生文政
十二年①フレデ

リキ、ヘルヂヤントと嫁む

井レルミ子、マリヤ

文化五年生

◎グリユクスブルグに嫁す

ゼオルジ四世王

文政三年即位天保

元年没す

井レルム四世王

天保元年即位天保

八年没す

ケント公エヂユワルド

ハノーフル王エル子スト

天保八年即位

ビクトリヤの夫
アルベルト

コブルグの公子として
ビクトリヤ

と同年生まれ文久元年没す

女
ビクトリヤ

文政二年生れ
天保八年即位

即き天保十一年コブルグの公子アルベルトと嫁す
即ち今の女主人あり

ハノーフル王ゼオルジオ五

赤永四年即位

カムブリジール公

ヘスセン侯の女◎オウグ

ステを娶す

カムブリジール公ゼオルジ

文政二年生

女
オウギユステ

文政五年生
ステレリツ公

又嫁す

女
マリ

天保四年生

女
ビクトリヤ

天保十一年生安政五年即位魯士王の世子フレデリキ、井ルリヤムに嫁す

アルベルトエドワルド

天保十二年生英國世子又立ち文久二年
連王キリスチヤンの女アレキサンドラ◎と娶す

女アリセ 天保十四年生 文久二年ヘスセシダルム
スタットの世子ロウ井ス又嫁す

アルフレド 弘化元年生

女ヘレナ 弘化三年生

女ロウ井サ 嘉永元年生

アルヂェル 嘉永三年生

レオポルト 嘉永六年生

ピートリセ 安政四年生

○糖楓の説

田中芳男存述

按又地理全志合意部ニ楓樹高茂汁甘了以
蔗類又聯邦志墨緬邦の條邦中楓樹雜出春取
其汁熬之則成糖と云り五車勅府及以海軍對
譯の字書皆メープル樹を楓と作せりメープル
英名^{ラテン}アホルニと云ひ^{ラテン}糖丁と云ハセルル
ハ是れカヘデ類の糖類あり蓋し英人カヘデ
を以て支那人と問ひしニ楓と答へしあり

我邦本州家カヘデを以て清人ニ質問する
亦楓と答ふる者多し然れども楓とカヘデと
と其屬別あれども葉形似しを以て亦楓の類
と名を呼ぶありし先輩カヘデを以て
槭樹或は野槭楓と云つ今略く華人の所記
又修て楓字を借用す

楓^カの屬三十四種に分つ其十二種を改羅巴ニ
九種と北亞墨利加ニ存り六種ハ日中ニ存り



糖楓 サタウカヘデ

英シガルメーブル
蘭ソイクル
アホルン

其條の種類ハ亞細亞の佐都^{サト}ニ在り日亦有り
存る六種も林容の美を成し賞觀を可き者
あり

草木の内種を食む者多し甘蔗、茶葉、胡蘿蔔

鳳梨、玉蜀黍、榦、楓樹等是ありサトウ、茶、ニンニク楓樹悉く種を採

收まぐアサトス、タウモロコシ、カヘデ非ざれども其屬大抵皆糖分を食う

粘中糖質最多きのものを名けて糖楓とす

種楓を亞墨利加聯邦内粘中邊レハニ西華尾を其

本地と人^{アタ}之を改羅巴^{アタ}ニ植るも亦能く繁殖す

酷寒の時候は方りて樹中夥多の甘液を生じ亞

墨人の種を採るや雪の將^{アタ}は消融する頃^{アタ}は於て人

毎日晴し乗し^{アタ}て樹幹に小孔を穿ち流を抽出し

液を採取取り之を煮て舍利別稠厚蜂蜜とす

型成も槽に注ぎ冷定をれば褐色のやき者の塊とある是

れ即ち楓糖とす其質甘蔗より採りたる糖は

異なる事あり之を再び精製すれば潔白精好

卷五 七

の糖とれる

大抵一本の樹より年々四斤の糖を得て一而て
樹身は朽ても聊も害はる事あり

糖の製式後
編は續刻也

樹は甘蔗と暖地と水をば培育し難し楓も

北地山中と自生し培養を待たば且製造し

勞多きを以て亦毎より製し自ら用ふるは

便あり彼糖楓の圖を檢するは木曾のソロソコ

カヘデ 江戸ヨクイハ子 にお似たり他日之を試す

べー且形状の異同は拘らば遍く楓の屬を檢
査し糖質の多少を實驗せしむるに遇ふ所
はらん

○石腦油を以て石炭に代用するの説

合衆國政府近來石腦油を以て石炭に代へ蒸
氣の用と充んとし水師の工兵に命し種々其
利用を試験し及つり抑石腦油蒸發の力ハ石炭
よりはるれば強く二十八分時の間は蒸氣の力

を起し二十斤又及び石炭の如きを四十分時
より少しづれば此力を起し事能く加^{シカ}之石腦
油の價甚く廉く己^{シカ}亞墨利加より英國^{シカ}又
性温まる蒸氣船^船ペルシヤ^号を用ひ試すより大
費用を省きしり且船中此油を貯^シて用ひ
隘の室より足まり故に航海に之を用ふ時を
費用を省く事少く近來^{オシヤ}俄國及^{カリ}ひ加利
福尼^{ホルニ}等より於て石腦油を出るの地を發明し此

油を産する事甚多し故に其用を世より廣く
と欲しといふ
按^トて我邦石腦油を産するの地少くし
船中亦越^{クサウ}え多し俗^{クサウ}に臭水油と稱す
天智天皇の御宇越國^{コシノクニ}燃る土燃る水を献
と記されし燃土^{コシノクニ}即ち石炭燃水^{コシノクニ}即ち石
腦油あり此油多く出つと雖も其用罕あり故
に世に廢物の如く思へり然るに今此説を獲

卷五
九

きれば祀し他日閑物と志を博雅の友と考ふ
備ふのみ

○石腦油の効用并アニリ子と名くる画

料の悦

此油と一種天造の山物なりて古来其効用を
詳しむも扱は医家より殺蟲劑として用る事あれども僅くのみ只これを焚
て燈に代るの議論あれども其後尚或も辨
駁せられ或も左袒せられ未だ一定に至らん

然るに近來の發明は投れば此油唯能く蚤虱
の類有害乃虫を除くはたあらん是を以て
アニリ子と名くる画料を製し出以て得
たりと云ふ元來アニリ子を世人の知る如く
藍靛インディゴ中の一成分なりて甚鮮美ある蔷薇色
の画料あり是を製する常方ハ上好の藍靛を
啼得沙ポットアスの濃き溶液と和せれば即ち赭色
なりて油の如き物と成る扱これを蒸餾せられ

を透明無色の液を得る。此液即ちアニリ子
スキトホリ
を以て香氣酒の如く味甚苛烈。舌を刺
以此アニリ子を以て結し。塩類を総て白色
あれども、赤系は解れて速に蕃薇色を帯い
たる黄色に變り或は試す白色の木片をアニ
リ子塩の溶水中に投ずれば、輒ち深黄色に
變り塩酸と能く此塩を種々の色に變せし
む但し其稀稠に随て或は綠色或は藍色

或は黒色とある然るにアニリ子の價廉あら
ざるを患とせしに近來の試験は賤價を以て
石腦油を化してアニリ子を製し、少々の方
を發めせり又此油を以て揮發芳香の亞的
兒を製し并に此油を石炭の代として蒸氣機
に用ふる者あり其効用少く、いと云
按近年船齋乃画料中蕃薇色よりして
極りて美麗なる者あり原名アニリ子紅一

名にシ子と云 坊間口子と呼ぶ 又アニリ子青、アニリ子紫等あり 俗に紅粉又も紫粉など呼ぶ 何れも鮮美の画料あり、アニリ子の紫式化学書中より詳なり、他日釋出さるべし、又云へる如く藍靛石腦油又石炭より之を製する法を得べし、此方著し行をすべし、又云らば裨益少く、さるべし

○地中海のジブラルタルに建る牙倫波

の像并に碑文の話

イスパニヤ人モンギルレスと云ふ者地中海のジブラルタル峽に牙倫波の像を安置し、不朽の盛業を後世に傳へんとし、其肖像は地球の形を造りて其上に立し、先指を西方に指し、是れ可倫波創見の亞墨利加の方を指すの意あり、其像成色日は存すべし、費用數千金ありと云ふ

按コロンビエスの墓碣トイスパニヤのセウ
リヤ部内ニ在リ碑文ハ其國語を以テ記を
之を譯スル者左の如ク

維可倫波

惠貽新邦

于加德拉

及亞拉岡

カステリー及ムアラゴンを皆古の王國の名
あり初文明元年一千四百
六十九年アラゴン王ジョワ
ン二世の世子ヘルゲナンドカステリー王へ

ンリー四世の妹イサベルラ又婚ハ其後文明

六年一千四百
七十四年

イサベルラ其兄の位を嗣ぎテ

カステリーの女王トありヘルゲナンドを文

明十一年一千四百
十九年ニありて父の位を嗣グ

アラゴン王トあり改メテヘルゲナンド二世

ト稱ス是ニ於テカステリーアラゴンの二國

合シテ一トあり後改メテイス
パニヤト号ス是ニ恰モコロ

ンビエス航海の志を發セテ頃アリコロンビエス

嘉吉二年 一千四百四十二年 又生れ明應元年 一千四百四十二年
 九十年 亞墨利加を創見し 永正三年 一千四百五十九年
 二年 六月 五月 廿日 又没し 我書はコロンビウス 一千四百五十九年
 又生れ 一千五百十九年 又没と云
 あり 誤 尚迄 日刊り する 西洋王代一覽
 扱て コロンビウスの傳記を知るべし

柳河先生著述目録

洋学指針

蘭学部

一冊

同

英学部

同

洋算用法

毎編一冊

写真鏡圖説

同

校智環啓蒙

一冊

法朗西文典

校刻本

二冊

同後編

同上

一冊

柳園叢書

追々出来

西洋雜誌

追々出来

新編砲家必携

近刻

袖珍藥說

日

插譯法朗西文典

門人江津藩侯著

日

英吉利日用通語

日

西洋王代一覽

日

ういまふい

語学教授本

每編一冊

拾遺

歌集

近刻

東京書肆

本町四丁目上州屋惣七

中外堂

